

第2次船橋市文化振興基本方針の骨子案

1. 目指すべき姿について

【第1次基本方針】

市民が「ふるさと船橋」へ愛着を抱いている状態

【6月15日協議会提示案】

市民が生涯にわたり文化・芸術に親しみ、心豊かに暮らしている状態

(主な意見)

- ・船橋の地域性を表すものがよい、現行の方針を骨太にするイメージでよいのではないか
- ・市民が“ふるさと船橋”を“実感”できるようにすることが大切ではないか
- ・施策展開のフックとなりうる具体的なワードを入れられるとよいのではないか
- ・上昇志向にとられることなく、足元をみつけ地域の資源に光をあてることが重要になってくる

【各課・委員照会提示案】

市民が地域の文化・芸術に親しみ、「ふるさと船橋」を実感できる状態

(主な意見)

- ・“ふるさと”という言葉は、生まれたちや幼少期に育った地を想起させ、個人における“ふるさと”は人それぞれが心の中で抱くものであり、その意味が市民に伝わるか疑問
- ・シンプルながら、市民がイメージの共有を図れるものではないか

【修正案】

市民が文化・芸術に触れ、「ふるさと船橋」に親しみを感じる状態

(修正案の考え方)

- ・第1回協議会での議論及び第1次基本方針からの継続性といった観点から、引き続き「ふるさと船橋」を織り込むこととする
- ・“第2のふるさと”という表現があるように、大人になって移り住んでから感じる“ふるさと”もあると考える
- ・在住者だけでなく在勤・在学者や本市で文化活動を行っている人、今船橋から離れている出身者や将来市民になる人も含め広く市民ととらえる
- ・これら、広く市民が船橋のまちを親近感を持ってもらうことで、“ふるさと船橋”を実感してもらう

2. 総合指標について

【第1次基本方針】

船橋市を「文化が盛んなまち」だと思う市民の割合 平成27年度 28.8% ⇒ 令和3年度 60.0%□

(アンケート結果)

約40% (中高生アンケートを除く) 市政モニター 39% 市民アンケート 41% 中高生アンケート 70%

(主な意見)

- ・ふるさと船橋を実感することを数値化することは難しいのではないか

【第2次基本方針】

船橋市を「文化が盛んなまち」だと思う市民の割合 **令和3年度 40% ⇒ 令和8年度 60%**

(基本的な考え方)

- ・市民が「ふるさと船橋」に親しみを感じるための方法論として、地域の文化・芸術活動に参加することは有用である
- ・より多くの人々が地域で文化・芸術活動に参加することで、市民の文化活動や市の文化事業が盛んとなる
- ・市の文化的なイメージが向上により、市民のみならず本市に親しみを感じる人が増える可能性がある
(誰もが垣根なく楽しめる文化・芸術の特性を生かせば、市外の人にも船橋のまちを身近に感じてもらえる)

3. 基本目標、施策について

【基本目標】

1. 気づき始まる 2. 学び楽しむ 3. 育みつながる 4. 活かし伝える ⇒4つの基本目標は踏襲

【第2次基本方針の基本目標と施策】

1. 気づき始まる

施策① 文化・芸術に関する情報を市民に効果的に届ける仕組みの構築

施策② 気軽に多様な文化に触れることができる機会の提供

2. 学び楽しむ

施策① あらゆる人々が文化・芸術活動に参加できる環境を整える

施策② 時代のニーズに合わせた文化事業の推進

3. 育みつながる

施策① 子供が文化・芸術に親しみ、心豊かに成長するための取組の充実

施策② 市民が主体的に文化に関わり社会とつながりを持てる仕組みの構築

4. 活かし伝える

施策① 地域の文化財を大切に守り、次世代へ継承する仕組みの構築

施策② 各地域の文化資源を活用する取組の充実